

本日、1学期の終業式を迎えることができました。皆さん一人一人は、悩んだり苦しんだり、いろいろな思いを持ちながら学校生活を送っていることと思いますが、何はともあれ、無事1学期を終えられることを、生徒の皆さん、保護者や地域の方々、そして教職員の皆さんに心から感謝します。本当にありがとうございます。

1学期の南高を振り返ってみますと、

県総体で、団体で優勝3つ、準優勝3つなど、多くの部が上位進出を果たしました。四国大会においても、登山男女が優勝、弓道男子団体がベスト 4に入るなど素晴らしい活躍を見せてくれました。

文化部では、放送部が県高校放送コンテストの各部門で最優秀、優秀を受賞し、全国高校放送コンテストに出場するとともに、全国高文祭にも出場します。全国高文祭には、吹奏楽部、弦楽部、自然科学部も出場します。

他にも、この夏、様々な成果が認められて海外での生活を体験する生徒、全国規模の交流体験等に参加する生徒もいます。それぞれとても素晴らしいことです。皆さんの活躍を大変うれしく、そして誇らしく思います。もちろん、これらの表彰を受けた、マスコミなどで取り上げられたなどの華々しい活躍以外の、それぞれの場所で一生懸命取り組んでいるみなさんの頑張りについても、大変頼もしく思っています。

華々しい活躍といえば、大谷翔平選手に注目が集まりますが、私が尊敬するスポーツ選手は、田口壮さんです。今はオリックスバファローズのコーチをしています。かつて、オリックスブルーウェーブでイチロー選手とともに鉄壁の外野守備を誇った人で、その後 2002 年にアメリカに渡って、苦労を重ねた後見事セントルイス・カージナルスでメジャーリーガーとなり、ワールドシリーズ優勝に貢献、移籍したフィラデルフィア・フィリーズでもワールドシリーズ優勝を果たしたという名選手です。しかし、田口さんは、メジャーリーガーの中で、決してスーパースターではありませんでした。どちらかといえば、サブプレーヤー（控え選手）としての印象が強い人です。特に、フィリーズでは、ベンチに入るものの、出場機会が極めて少ない選手でした。メジャーリーグ

のベンチに入れるのは各チーム25人です。スーパースターがそろっていた当時のフィリーズで田口さんは、自分を25番目の選手であると自覚していました。そのために、彼が気をつけたことは、チームを、毎日作り上げる25ピースのジグソーパズルにたとえ、自分のことを、そのパズルを完成させるために、毎日、最後の25番目に入れられるピースだと意識するようにしたということでした。25人の人間がチームを作り、相手と試合をしているのですから、25番目に残るスペースの形は当然毎日変わります。でもどんな形のスペースが残っても、そこにぴたりと当てはまることができるようにいろいろなことを想定して準備していたといいます。すごいことですね。そういう準備をしていた田口さんでしたが、やはり出場機会には恵まれませんでした。そこで田口さんは、気持ちを切り替えて、さらに25番目のピースの役割を考えるようになります。そして、田口さんがベンチで意識するようにしたのは、「いつも笑顔でいる」ということ、いろいろなところでチームのメンバーに声をかけてムードをよくすることでした。その結果、チームは見事ワールドチャンピオンになりました。レギュラー選手の中に、チームが優勝できたのは田口さんのおかげだという選手が数多くいたそうです。また、2002年から6シーズンを過ごしたカージナルスのファンからもとても愛されて、ファンが選ぶカージナルスの2000年代最強のサブプレーヤーにも選ばれました。これこそ、まさに、仕事ができる人です。こんな人に私もなりたいなあと常々思っています。

皆さん、私が始業式に話したことを覚えているでしょうか。森博嗣さんのエッセイを読んで「スタートの音は走るべき人間にしか聞こえない」ということを話しました。

皆さん自身の1学期は、どうだったでしょうか。「十分でなかったな。」と思う人は、今日から取り組みましょう。未来を変えるには今日を変えるしかありません。未来が変われば、過去に起こった出来事の意味も変わります。少しずつでもいいんです。未来のために、今日から、行動あるのみです。2学期の始業式に、充実感に満ちあふれた元気な笑顔の皆さんに再会できることを楽しみにしています。

少々遅れても問題はない。スタートするだけだ。必ず走れる。絶対に走りきれる。